

令和6年度 安全普及啓発活動助成 実例紹介（一部）

事業名	令和6年度安全マップ作成事業		
実施日	R6.9.26(木)	参加人数	－
実施内容	成果・感想		
学校周辺の安全マップの作成。 注意箇所、危険箇所、避難場所等をわかりやすく写真やイラストで記載。 ● 校区内周辺の現地確認（10/26）：会員9名、児童7名で実施。		校区内周辺の現地確認では、保護者、児童が参加され、児童の目線で確認ができた。3年前に安全マップを作成したが、避難場所、危険場所等の変更が見られた。今後、年に一度は確認が必要かと思われる。全児童に配布し、皆すぐにプリントを挟んだりなどして使用していた。4月入学の新1年生にも配布する予定。	

事業名	生命（いのち）の安全教育～思春期の不思議～		
実施日	R6.12.17(火)	参加人数	児童生徒32名／会員他4名
実施内容	成果・感想		
琉球大学教育学部・教育学研究科・教職センター アドバイザリースタッフ派遣事業を利用して、琉球大学教育学研究科 村末勇介准教授を招聘し、4年生各学級で授業を実施した。		（児童の感想より抜粋）「男子と女子では思春期の成長の仕方が全然違うと思った。体に成長スイッチが入っても、楽しく生きて、自分の体が変わったと思ひこみしない」「大人に向けておこる思春期のことがよくわかった。人それぞれの体の変化を優しい声かけすることが大切だと思った」「思春期を恥ずかしがらずにできるように頑張りたいと思った」「体に思春期の変化が起こっても、大人になっているんだと気付けるように今日のお話を活かしたい」	

事業名	情報モラルに関する講演会（仮名称）		
実施日	R7.2.17.(日)	参加人数	児童生徒 420名／会員他200名
実施内容	成果・感想		
～小学生向け～ ●低学年：スマホの利用に関する講演会 健康を害さない利用方法や使用時間、オンラインでのマナーとエチケットの理解(LINEの利用方法) ●高学年：法律に関わる内容、情報発信の責任など、より高度な内容を扱った。肖像権、著作権等の侵害が起きた実際のケースとそれを防ぐ方法。（デジタルタトゥー、盗撮等の具体的な例を挙げて解説） ※児童の発達段階に合わせ、分かりやすい言葉で説明があった。		子どもたちが真剣に話を聞いている姿が印象的だった。特に、6年生は中学校進学を控え、スマートフォンを持つ機会が増える時期ということもあり、法律やルール、マナーについてのお話は、彼らの心に深く響いたことと思った。また、保護者の皆様にとっても、知らなかった情報や改めて考えるきっかけとなる内容が多く、大変好評だったと感じた。今回の講演会では、スマートフォンを「使用しない」のではなく、「ルールやマナーを守って正しく使用する」ということが伝わった。	

事業名	地域と取り組む交通安全対策		
実施日	R6.10.1(木)	参加人数	児童生徒 769名／会員他 572名
実施内容	成果・感想		
・朝の登校時に交通安全指導ボランティアとして保護者や地域ボランティアが安全ベストを着用し、交通安全指導や道路横断時の安全確保を実施。 ・保護者や地域ボランティアが安全ベストで活動することで、交通安全指導と共に、不審者等への防犯対策を行う。		・安全ベストを着用しての交通安全指導により、児童が安心して登校することができた。 ・安全ベストを着用しての交通安全指導により、運転者への注意喚起だけでなく、不審者等への防犯対策を行うことができた。	

事業名	LGBT 性の多様性		
実施日	R6.12.2(火)	参加人数	児童生徒 430名／会員他25名
実施内容	成果・感想		
■■■■■PTAとしてLGBT/性の多様性について学び、日頃児童の中に見え隠れするグレーゾーンへの対応の仕方について理解できた。 ・LGBT/性の多様性について、講師の方から学ぶことにより、日々悩んでいることや気付いていないことについて知ること、 「自分らしさ」を表現できる良い機会にできた。		・「性の多様性」について、児童も保護者も理解を深めることができた。 ・「みんなちがっていい」という気持ちに対して、児童一人ひとりが考えることができる良い機会となった。 ・「性の多様性」だけでなく、国籍や文化等も含めた多様性も受け入れる社会の実現に向けて、教育活動を推進していきたい。	

事業名	自分らしく生きる～自己肯定感・性の多様性～講演会		
実施日	R7.2.5.(水)	参加人数	児童生徒 85名／会員 8名
実施内容	成果・感想		
児童ひとりひとりが、性の多様性や自分らしく生きることについて考え、自己肯定感と多様性尊重の心を育むことを目的とし、NPO法人レインボーハートOKINAWA理事長 竹内 清文氏に講演していただいた。		性の多様性だけではなく、人とちがっても大丈夫なんだ、自分らしく生きることが大切なんだということを、クイズなどを交えて児童に分かりやすくお話していただき、児童も積極的に発言したり、質問したりして、とても良い講演会になった。	

令和6年度 安全普及啓発活動助成 実例紹介（一部）

事業名	水難事故防止講習会		
実施日	R6.6.19.(水)～20(木)		
実施内容	5年生・6年生とその保護者を対象に、講師を招き、着衣泳で服が水を吸って動きにくくなる感覚を体験。溺れた場合を想定し空のペットボトルを抱えて、ラッコのように浮いて待つ方法を習得する。水難事故防止教育をとおり、防災意識を高め、防げる、守れる命があるということを知ってもらう。		
参加人数	児童生徒128名／会員22名		
成果・感想	着衣で水の中に入ることに慣れていない児童は、「重たい」「動きづらい」と口にし、改めて水の怖さを実感できたのではないと思う。またライフジャケット着用の大切さも教えてもらい、水辺で遊ぶ時には、ライフジャケットは必須！と心に刻めた。「浮いて待つ」ことの意味を知り、改めて守れる命があることを学ぶことができた。		

事業名	落語をとおして学ぶ人権		
実施日	R6.12.7(土)	参加人数	児童生徒 60名／会員 10名
実施内容	成果・感想		
落語家 北山亭メンソーレ氏を招き、大人も子どもも一緒に楽しく人権について学ぶ。「一人ひとりが社会を構成する大事な存在」ということをみんなで大笑いしながら感じた。		落語の演目として①寿限無②牛褒め を実施いただいた。参加の子どもたち、大人も一緒に笑いながら名前には我が子が健やかに育ってくれますようになどの親や家族の思いが込められており、一人ひとりが大切な存在だと感じ取れる内容だった。初めて落語に触れる子どもたちもあり、楽しかったと笑顔が見られた。今後も落語や読み聞かせなどを通して、子どもたちに物語の面白さ、想像力、共感力を育む機会を提供できるように活動していきたい。	

事業名	「男性と女性の更年期の特徴、思春期の子どもの接し方を学んで暮らしに活かせる講座」		
実施日	R6.10.11(金)	参加人数	児童生徒 8名／会員他 46名
実施内容	成果・感想		
男性と女性の更年期の特徴、思春期の子どもの接し方を学んで暮らしに活かせる講座。事業目的や演題名に基づいた講演会を実施。①琉舞とフラダンスによる童神の演舞(PTA会員) ②講演・質疑（事前に集めた更年期・思春期に関する質問に三砂先生に順番に回答いただいた。		アンケートより抜粋：「先生のお話は軽快でとても面白く大変興味深いもので、更年期も思春期も＜生まれ直しのフェーズ＞にしていると聞いて納得！意味が分かって乗り越えていけると感じられた」「思春期の声掛けとして言うのを迷ったときは言わずに見守ればいいと分かった」「自分のための身体ということばに感動した」「更年期は不安に考えなくていい、思春期の子どものためには夫婦仲良くするということが響いた」「オープニングのフラと琉舞のコラボ、とても素敵だった」「更年期のことを心配していたが、気の持ちようによりなんでもないないことと感じられ安心した」など。不安に思っていたことが解消されたり、前向きな気持ちになれたという意見が大半をしめ、とても意義のある講演会だったと言える。	

事業名	プロが測る「M-1GP親子体力測定会」		
実施日	R6.7.20.(土)		
実施内容			
最新のスポーツ器具を活用しスポーツ科学に触れて、全てのスポーツの基礎となる「走る・飛ぶ・判断・反応する能力」の測定を行い、家族みんなでスポーツを通して、子どもたちは健康安全面からの体力向上、大人は健康増進につながる体力測定会であった。			

事業名	No DRR, No Life ～いのちを守る力		
実施日	R6.12.13(土)		
実施内容			
本事業では、災害（地震、津波）について正しい知識を学び、防災について考える。また、避難所体験や炊飯体験を通して災害後についても考える。防災について理解を深め、家庭内で話し合い、災害時のルールを決めなど、日頃からの防災への意識づけへの一助になるものとする。			
11/25 「身近なもので作る防災グッズづくり」			
12/2-6 展示：防災グッズ			
12/4 「No DRR, No LIFE ～いのちを守る力～」			
参加人数	児童生徒 274名／会員 32名		
成果・感想	●身近な物で防災グッズを作ることで、災害時のために備えを確認できた。特に、古紙などについては全部捨てるのではなく、いくらか置いておくということへの気づきは大きかった。 ●防災グッズの展示では、実物にふれることでより具体的に理解できた。 ●講演会は、正しい知識がいざという時の判断力になることを学ぶことができた。 ●炊き出し訓練は、スムーズに配食することができた。実際の災害時のイメージはしにくかった。保護者も事前に学習しより災害時に近いカタチでの炊き出し訓練がよかっただろう。 ●防災についての知識は薄れていくものである。避難訓練と同様に毎年実施できるとよい。		

事業名	いのちの授業（講話）			
実施日	R6.10.28(日)		参加人数	児童生徒136名
実施内容	・自作のパネルを使い、命の大切さを学んでもらう。 ・ペットを飼うルールとマナーを知る。 ・言葉の大切さ、相手を思いやることについて改めて考える。 ・SNSのトラブルやリスクから身を守る。		成果・感想	
			やなえもんさんのユーモアを交えた「動物の殺処分」「ハートを大きくすること」など、分かりやすく伝えてくれることで、子どもたちは楽しくも真剣に「いのちの大切さ」について学び、「ペットの殺処分ゼロ」「いじめゼロ」を目指すきっかけとなった。	